

### **有馬がキリスト教宣教の拠点として栄える**

当時、日本は大名と呼ばれる領主が治めるたくさんの領地に分かれていた。九州地方の多くの大名は貿易の利益を求めて宣教師を受け入れたが、キリスト教の敬虔な信者になったものもいた。キリスト教に改宗し、宣教師たちの布教活動を支援した大名は「キリシタン大名」と呼ばれる。九州のキリシタン大名で最もよく知られているのは、大村純忠、有馬晴信、大友宗麟、小西行長の四人である。

アジアでの布教活動を監督するイエズス会の「巡察師」だったアレックスandro・ヴァリニャーノ神父は、1579年に初めて来日した際、有馬晴信という長崎地方の大名と出会った。ヴァリニャーノは晴信に有馬氏の居城である日野江城で洗礼を授けた。有馬晴信は、1587年に豊臣秀吉が「伴天連追放令」を出した後でさえも積極的に宣教師を受け入れ、有馬地域はキリスト教宣教の拠点として栄えた。

キリシタン大名の領地では領主にならって多くの領民が改宗した。長崎地方には多くの教会堂が建てられた。有馬や長崎、浦上、天草にはセミナリオやコレジオが開かれ、絵画や音楽、印刷技術などのヨーロッパ文化が広まっていった。

(挿画：庄司好孝)